

第5回セミナーを8月6日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場：愛知文教大学 ABUラウンジ

テーマ：数学における学び合う学びの授業実践から学ぶ

講師：コメンテーター 岩倉市教育委員会 教育長 野木森 広 先生

：実践発表者 岩倉市立南部中学校 横山 雄大 先生

先生が話さない、子ども同士で進めるということの難しさを実感しました。

「子ども同士で話し合いを進める」と言っても「分からない」ということが言える状況が基盤になるのだと思いました。

「分からない」ということが言えれば、自然と子ども同士で話し合いが進み、班活動においてきぼりにされる子どもや、意図した所と違うレベルの内容で話し合いが進んでしまうことが減らせるのだと思いました。

また、分からないと思ったこと概念を共有するために、文章だけでなく、図などを用いることの大切さを学びました。

教師が教えず、生徒自身で学びあっていく授業をどのようにやっていくか、改めて考えることができました。まだまだ教える授業から進化できない自分を変えていくために、学んでいきたいと思えます。

「学びの作法」を実践した授業を見させていただき、これからの自分の授業の参考になりました。ありがとうございました。

一人ひとりの学びを保障することのできる学び合いを行うことで、子どもたちは分からないを飲みこまず、自ら助けを求めることができると改めて感じました。これから生きていく力につながると思いました。

そんな学び合いを行う前提として、子ども同士はもちろん学級の温かい関係づくりにも力を入れていく必要があると思えました。私も子どもたちと一緒に学んでいけて、学び合うことができるよう、そして子どもが学んでいく足場をかけることができるようにしていきたいと思えました。ありがとうございました。

「学び」について学ぶ機会を頂き、ありがとうございました。

数学の授業を離れ3年半、現在の自分がどのように数学の授業を展開していくのか、自分の中で想像しながら参加させて頂きました。

「また数学の授業をやりたいな~」という気持ちが強くなりました。

今年度から、班活動を取り入れた授業を始め、うまくいかないことがたくさんあり、悩み、教務主任に相談をしていました。教えていただくだけではイメージできなかったことが、今日参加させていただいてよりイメージでき、納得できたことが多くありました。

取り組みはじめて数ヶ月では、なかなかたどりつけない領域だということも十分に分かったので、工夫をしながら継続してやっていこうと思えます。ありがとうございました。

分からないことを「分からない」と言えるように、というのは本校でも大切にしています。

「分からない」と言えるということは、「分ろう」としていることでもあり、「〇〇が分からない」ということを「自分の意見」として認めていくことで、全員が学ぼうという意欲をもった授業の実現に向かっていけると思えます。

思考レベルでの全員参加を、自分の学校でも目指していきたいなと思いました。
ありがとうございました。

数学の授業実践を見せていただき、とても参考になりました。
私もちょうど同じ「列車の問題」を授業で行いました。

自分の授業展開の違い、子どもの疑問点の解決の仕方など、たくさん勉強になることばかりでした。私も Jump 課題を考えて、2 学期からまた頑張りたいと思います。

“理念にもとづいて実践をする“それを聞いて、話し合うこのセミナーのよさを今回もまた実感しました。

挑戦的な授業の実際は大いに刺激になりました。

また、野木森教育長のまとめは、とてもよくわかり、学び合う学びを大いに価値づけるものでした。

とても勉強になりました。

授業、学習環境・学びの雰囲気を変えて見つめ直していこうと思いました。

わからない子が自らわからないといえるように、全員で支え合える教室になるよう工夫していきたいです。

教育長さんの説明で長年に渡り授業研究に取り組んで来られた取り組みの価値付けをしていただき、学び合う学びだけでなく学習指導要領との関連も含めて学び直すことができました。中でも 4 つの学びの作法は、教師にとっても生徒にとっても重要なスローガンであると思います。ただ、それを掲げるまでは良いのですが、具体的に日々の授業でこれをどう指導するのか、状況を見て次善の策をどう練るのか、この一歩がけっこう大きく、実はこれこそが授業研究の肝ではないかと思いました。

授業ビデオで、生徒が主体となることを意識しておられました。生徒を主体に活動させるとき、教師はただ見守るだけでよいとは思えません。次にどういう手を打つべきか状況を必死になって把握し考え、学びに遠ざかっている生徒のケアなど、むしろ頭の回転は自分がしゃべる以上に大変ではないかと改めて学ぶことができました。

ビデオ撮影について、全グループを撮るのがよいのか、それとも 1, 2 のグループに絞って変化を撮る方がよいのか、皆様のご意見を伺いたいと思いました。

岩倉南部中の噂は以前から聞いていましたが、今回改めてセミナーに参加して、とても感心しました。特に、授業改革を中心に置いた学校づくりの観点を貫いておられることが素晴らしいと思います。

どうしても、学校づくりとは離れた現職教育としての授業研究となりがちですから。ただ、お聞きしていて、少し言葉が踊っているなあと感じました。たとえば「未知の知との出会い」「ジャンプ課題は全員未知の課題」です。「もう知っていると思っていたこと」が視点を変えると未知になるなども含めた、もう少し余裕が欲しいと感じました。また、動画では、少し雰囲気がかたい（「多くの先生方が来たから」などは原因ではないと思います）ように感じます。

「わかったふりをしない」が「これって、どうやるんだったかな」とか「ここがよくわからん」など、もっと当然授業の場面で出てくる様子のイメージに結びついてほしい、とも感じました。

要するに、よそゆきではなく、自分たちが腹落ちする言葉で語られるようになると、もっと生徒たちの学びも変わると感じました。

ジャンプ課題に挑戦することは素晴らしいことで、必要なことですが、毎時間では無理が生じます。「単元で1時間は」でも構わないように感じます。

それが、「昔と比べたら、生徒の授業態度は良くなった」から「こんな考えが、あの生徒から出た」という、教師の喜びの発見に繋がるのかなあと思います。

今後の岩倉南中に期待しています。

セミナーに参加させていただきました。協議の中で、何度も分からないことの表出の重要性が確認されていました。

改めて、自ら学びに向かう姿の基本が、分からなさを出し、それを誠実に希求することであると感じました。ただ、多くの教室では、その壁を乗り越えられないでいるのも事実です。今回の数学の授業でも見られた光景でした。それを乗り越えるために、学ぶことや仲間との関係性に「心のゆとり」を持っている子が、さりげない優しさを持って、一步を踏み出せない子に問いかけていくこともまた大切であると感じました。さりげない優しさによる問いかけには、学力の優劣ではなく、学ぶ者への（同志とも呼べる）敬意が必要です。学ぼうとする姿勢への敬意という価値観を、教室内で共有できれば、学びあうことの素晴らしさもまた共有できるように思います。

野木森教育長から紹介のあった研究理論については、現行学習指導要領が明確でない頃（中教審答申段階）に作成したものであり、今思い返せば修正したいことばかりです。

授業改善は、現有尾校長先生と倉知先生のタッグにより、着実に進化しています。自分では到底できなかつたことを、しっかりと前進させておられる取り組みに、敬服致します。あの時はうまく言えませんでした。学校の文化は、長い時間をかけて作られるべきであり、そうでなければ、簡単に崩れてしまうだろうし、本物にはなり得ないのだろうと思っています。その意味で、南中の歴史を踏まえて今の授業が作られていることに、やはり感動します。今後も、淀むことなく長い時間をかけて進んでいくことを願っています。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「わからない子発信の授業作り」です。

南部中学校の研究理念がとても洗練されており、物凄くストンと心に落ちました。わかりやすい言葉でまとめているところが、全職員の共通理解に繋がっているのだと思います。ひいては、それが生徒にも伝わり、学校全体の雰囲気にもつながっていると思いました。授業の映像を見ても、学びの雰囲気がとても良かったです。また南部中学校の授業を見にいきたいと思いました。

最後のお話にもありましたが、小牧の先生と岩倉の先生と一緒に学び合うことができたのは、本当に良かったと思います。

ぜひ機会があれば、また小牧の先生方と学び合いたいです。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「学び合う学びの主役は、児童生徒であ

り、分からないことが学びを深いものとする事」です。

とても雰囲気の良い学級での授業を観ることができ良かった。

授業者から出された「課題」は、授業者として非常に的確で、学び合う学びの根本を知るのに役立つものでした。

野木森教育長のお話も、様々な観点からの話で、新たな発見や興味・関心を抱かせる内容で大変良かったと感じています。

授業実践から学ぶ機会を与えていただき、感謝しています。岩倉の先生方、ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「わからないからこそその学び合い、その事が教育にとって如何に大切なことかということ」です。

数学科の学習目標と発言を伴う授業のあり方の双方を成立させる学び合いについて、具体的に示していただけたので、専門外の私自身もしっかり理解できました。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「だれ一人取り残さない公正な学び」です。

中島先生がおしゃっていたように、小牧市と岩倉市の先生方がこのように交流を持てたことに学ぶ喜びを感じました。ありがとうございました。

私の今の課題は、探究の課題作りです。岩倉南部中学校さんは、全教科でジャンプ課題を考えられており、教職員の皆さんの教科特有の授業作りに対する意識の高さや、学校としてのエネルギーに感動し、大変学ばせて頂きました。2 学期以降の授業づくりに参考にさせていただきます。

「探究・協同・創造」を理念に、学校づくり・授業づくりに取り組んでこられたとのこと、私も 20 年来、その理念に心惹かれ、今もそういう子どもの姿を追い求めています。加えて、私が学ばせていただいている学び合う学びでは、もう一つの理念に、「誰一人残さず全ての子の学びを保障する公正な教育」があります。今日、参加者の皆さんがおっしゃっていた「わからなさ」を出せるというのは、わからないことを宝物として互いにリスペクトし合い、誰一人残さない=学びの独りぼっちをつくらないという作法に繋がるのだと思います。探究の課題とともに、私もそれを大切にしていきたいと改めて学ばせていただきました。

授業動画を拝見して、ビデオの中のメガネの男の子のグループに注目しました。男の子は他の 3 人のことをとても気づかってくれていて、あったかいなーと心打たれました。一方、その前の席の女の子が気になりました。彼女の頭の中、心の中には何がどんな感情が渦巻いていたのでしょうか。それを「見たい」と思いました。彼女は、鉛筆もあまり動いておらず、だけど他の仲間に説明しているめがねの男の子の言葉に、耳を澄ましているように見受けました。これは推測ですが、その姿は、彼女の知りたい、教えてほしいという SOS の始まりだと思うのです。彼女が、自ら「教えて」といえることは、早く正解にたどり着くことよりもずっとずっと尊いことではないでしょうか。それこそ、主体的な学びになると思うのです。そういう姿勢が「学ぶ」ことなのだという「共通の理念」を、生徒も先生も共有できると素敵ですね。

今日は、岩倉南部中の先生がご自身の困り感を出してくださいました。それに寄り添って、皆さんが自分ごととして考えることで、私たちも学べました。悩んでいると言ってください、

ありがとうございます。先生がおっしゃっていた3つの悩みは、授業をしていればどなたも悩むことだと思います。しかし、どうすればよいかを一般論で語ることは子どもを置き去りにすることにもなりかねないと思います。どうすればよいかは、子どもの姿でしかわかりません。すべてのこたえは、子どもにあるし、子どもの事実が教えてくれます。そして、何をどうすればよいのかは、子ども一人ひとり違うように思うのです。例えば、もっと早く支援の必要なお子さんもいるし、待った方がよいお子さんもいる、その匙加減は、授業者にはかわからない。だからこそ、私たち教師は、授業の中で子ども一人ひとりに起きている「事実」をしっかりと見、その子に応じた対応ができるようになっていきたいと、改めて感じさせていただきました。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「学び合う学びのネットワーク」です。野木森先生ありがとうございました。お話をたのしみにしていました。先生の柔軟なデザイン・多くのエピソードのドキュメンテーション・ダイアログを生む工夫、コーディネート力や心にささる切れ味鋭い語り等からいっぱい今日も学びました。

学び合う学び研究所の事務局にお願いしてビデオでリフレクションする機会をつくっていただき、対話的に何度も学びたいと思いました。小牧市の宝の一人、倉知雪春先生に學ばれ、学び合う学びが岩倉市を核に丹葉地区で広がっていることに感動しました。

岩倉南部中で昨年までご活躍だった先生からすてきな資料をいただきました。宝物が増えました。仲間と共有して、協同的に探究して省察したいと思います。

高橋先生を中心に創られた、真正性や本質を追究し、何度も更新なされている、オリジナリティあふれる理念や学びの作法等が最高でした。ホームページなどで公開され、学び合う学びのネットワークで共有し、意図的なもどしと対話により、学びがさらに深まり、すべての子どもの学びと未来が保障されることを願っています。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「組織（学校）として学びに取り組むことの重要性」です。

今回の、岩倉南部中学の取り組み、そして野木森教育長のお話をお聞きして、教師の専門性を育てる環境としての学校の在り方について、改めて考える機会となりました。私も、3月まで務めた勤務校で、愛日地区事務協議会の研究に取り組みました。その際に、職員と何度も話し合い、研究の目指す方向を全員で確認したり、あるいは生徒たち自身の言葉で「自分たちが挑戦している学び」について語ってもらったりと、研究を自分事としてとらえるために、様々なアプローチを試みたことを思い出しました。また、岩倉南部中の取り組みを、一校の実践で終わらせるのではなく、岩倉市の財産として共有する仕組みは、学ぶべきことがたくさんありました。教員は、いつか転勤していきます。研究校で学び挑戦したことが、他校に異動しても受け入れられる文化があることが、いかに大切か。こういった取り組みが広がっていくことは、これから教師になる人たちにとっても、専門性を身に着ける機会を保障することにつながると思います。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「依存できる力と依存できる環境作り」です。

提案者の横山先生が、最後に3つの悩み/迷いを話されたことが良かったと思います。「復習

のタイミング」、「声かけのタイミング」、「ジャンプ課題の提示のタイミング」について。この3点についてグループで話す中で、学び合う学びの理念について再度確認することができました。そして、その理念について、言葉で整然とまとめることの善し悪しについて考えさせられました。

近年、学校が若返り（言葉は良いですが）、教育技術の継承が問題点の一つになっているのではと感じています。学び合う学びについても、理念が分からないまま、そのスタイルだけが一人歩きしているのではと感じることがあります。これから学び合いを始めようとする先生方には、その理念が整然とまとめられたものがあれば納得して実践できると思います。一方で、その理念が字面だけのものになってしまうと、いわゆる How to 本になってしまいます。だからこそ、共同・協働することの大切さを改めて感じました。上手に働き方改革を進めながら、学び合いの継承が進む文化を根付かせたいと思いました。